vol.31

2016年11月

エル・コンパス

Link つながる
Live 生きる
Learn 学ぶ
Labour 労働
Liberty 自由

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。
センターの愛称“エル”は上記の５つのＬの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター

巻頭エッセイ「日本の女性議員」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
特集　女性たちの生きづらさ　非正規職・シングルを生きる・・・・・・・・・・・ 2
　　シングル介護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
情報図書（図書の紹介・エル・シネマ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
講座・イベント案内　（11 月～3 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
センターフェスティバル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

日本の女性議員

今年８月に女性初の東京都知事、９月に女性初の民進党党首が誕生した。

当市については市長が女性で、市議会議員の 26 人中９名が女性議員と高い比率をあげており、婦人参政権が実現した戦後最初の総選挙（1946 年）では衆議院に 39 人（8.9%）もの女性議員が誕生したが、そのうち唯一存命の佐藤きよ子さんは当市在住である。

しかし、『日本の女性議員　どうすれば増えるのか』（2016 年　朝日新聞出版　三浦まり編著）によると、世界中で女性議員はきわめて少なく、そのなかでも日本は最低レベルにあることが分かる。

日本の女性の政治参加は著しく遅れており、国会の女性議員比率で見ると、下院（衆議院）の 9.5%というのは 191 ヶ国中 156 位という低いレベルにある。女性が１割未満の国は 38 か国あるが、日本はその一つだ。アジアのなかでも日本より低い国はタイとスリランカだけで、世界からもアジアからも取り残されているのが分かる。

日本では「政治は男性のもの」という意識が強く、長い間、女性議員が少ないのは自明のこととされてきたが、女性が抱える課題解決のためには、当事者である女性議員が問題提起する可能性があることや、女性議員が増えることによって、女性だけでなく、社会全体がその恩恵を享受することも分かってきた。

女性議員比率の世界平均が過去 20 年で約２倍へと上昇した最大の理由は「クオータ」制度の普及にあり、現在 120 ヶ国以上で施行されている。

日本政府も 2003 年に、2020 年までに指導的立場に立つ女性の割合を 30％にするという「202030」を目標に掲げていたが、目標達成は厳しいと昨年 12 月に分野別の目標に設定し直した。先送りばかりではみっともない。クオータ実現可能への具体的な方法提示が今問われている。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西　理事長
田上時子

特集 女性たちの生きづらさ

非正規職・シングル を生きる

パートやアルバイト、派遣社員などの非正規で働くシングル女性が増えています。今まで女性の非正規労働者といえば、主婦のパートタイマーか若年のフリーターというイメージでしたが、壮年（35～44 歳）の非正規職で働くシングル女性が増加しています。経済的に自立するには厳しい賃金水準ですが、彼女たちが抱える困難さについてはあまり注目されることはありませんでした。今回、その実態となぜ彼女たちの事が可視化されなかったのかについて考えてみます。

2015 年、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会は「横浜市、大阪市、福岡市を中心とする地域に在住し、非正規で働いている 35～54 歳で子どものいないシングル女性」を対象にウェブアンケート調査（261 件）とグループインタビュー（22 人）を行いました。それによると、6 割が「正社員として働ける会社がなかった」、いわゆる不本意非正規、7 割が年収 250 万円未満でした。仕事に対する悩みや不安で最も多かったのが、「収入が少ない」と「雇用継続の不安」。「昇給も賞与も退職金もなく、貯金ができない」、将来の生計の見通しの暗さから「死んだほうがいい」といった記述も少なくありませんでした。また、経済的な困難だけではなく、女性でシングルであることによって目に見えない心理的な圧迫を受けていて、「結婚して子どもがいて当然という暗黙の差別」や「シングル女性として、きょうだいや親自身から介護役割を期待されている」といった状況も見受けられました。（出典：「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書」）

「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書」（2016 年 3 月）
公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が、一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会および公立大学法人福岡女子大学教授の野依智子氏に呼びかけ、三者共同で調査を行った。

増えるシングルの女性非正規雇用労働者

独立行政法人 労働政策研究・研修機構（JILPT）の「壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究報告―就職氷河期から「20 年後」の政策課題―」によると、壮年（35 歳～44 歳）の独身女性で雇用されて働いている人のうち、非正規の人数の割合が、年々増えていることがわかります。2002 年の 16 万人から 2014 年には 78 万人に増え、10 年間の間で人数は 5 倍近くになっています。（男性の増加率に比べ、女性の増加率が大きい）

バブル崩壊後の就職氷河期世代にあたる、この世代の女性は特に、初めて就いた仕事からずっと非正規という場合が少なくありません。

男女・婚姻状態別にみた壮年非正規雇用労働者数・割合の推移（人数：万人、割合：%）

		2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年
35～44歳の男性	(A)就業者	744	757	767	778	797	816	834	835	843	870	862	856
	(B)雇用労働者	624	638	650	656	675	699	713	718	728	753	747	740
	(C)非正規雇用労働者	35	35	43	45	49	53	58	53	57	61	68	71
	(C)/(A)×100	4.7	4.6	5.6	5.8	6.1	6.5	7.0	6.3	6.8	7.0	7.9	8.3
	(C)/(B)×100	5.6	5.5	6.6	6.9	7.3	7.6	8.1	7.4	7.8	8.1	9.1	9.6
35～44歳の未婚女性 (2013年以降は無配偶女性)	(A)就業者	71	78	82	93	97	112	112	121	123	134	203	194
	(B)雇用労働者	66	72	75	86	91	105	105	113	116	127	191	182
	(C)非正規雇用労働者	16	20	24	24	28	34	34	37	38	43	77	78
	(C)/(A)×100	22.5	25.6	29.3	25.8	28.9	30.4	30.4	30.6	30.9	32.1	37.9	40.2
	(C)/(B)×100	24.2	27.8	32.0	27.9	30.8	32.4	32.4	32.7	32.8	33.9	40.3	42.9

出所：JILPT「壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究報告―就職氷河期から「20 年後」の政策課題―」（2015 年 10 月）
注１：女性については、2012 年までは「未婚女性」、2013 年以降は「無配偶女性」である。
注２：在学中の者は除いている。

ー個人的なことは社会的なことー

非正規職・シングルの困難さはなぜ見過ごされてきたか

● 性別役割分担　ー男性は仕事、女性は家庭ー

高度成長期、日本の「標準家族」のイメージは、「夫は企業に勤めるサラリーマンで、妻は専業主婦、子どもは２人、親が高齢になると同居し、妻が介護する」という「男性稼ぎ主モデル」でした。30 代前半までに９割前後が結婚、未婚率も低かった時代です。そこでは、「女性は結婚して男性に扶養されるべきもの」でシングルや離婚する女性は例外とされてきたのでした。男性は日本的雇用慣行のもと、終身雇用と年功賃金が約束される一方で長時間労働を課されていたのでした。時代と共に共働き世帯は専業主婦の世帯を上回っていきましたが、その大半は主婦パートと呼ばれる非正規雇用で、その労働は家計補助としてみなされ、自立できる賃金や待遇ではありませんでした。専業主婦は配偶者控除や第３号被保険者制度などの社会制度によって守られる一方、それが女性の経済的自立を阻んでいました。実際には非正規雇用で働くのは主婦パートばかりではなく、シングル女性の存在も少なくありませんでしたが、その賃金や待遇の悪さは問題とされませんでした。なぜなら、彼女たちは例外であったから。しかし、ここにきて「日本的雇用慣行」も「男性稼ぎ主モデル」も崩壊し、女性を取り巻く環境は大きく変化しました。にもかかわらず、非正規雇用で働く人の状況は厳しく、シングル女性への支援もほとんどされていません。

● 「家族」という枠の中で

親と同居する壮年（35 歳～44 歳）シングル男女の割合が年々増えています。低所得で経済的に一人暮らしを維持できないために実家に住まざるを得ないという人が多いのですが、親の世話や介護のために同居している人も少なくありません。男性に比べ、女性の「実家暮らし」についてはあまり問題視されることがありませんでした。かつてはそれが就職の条件であったり、無職でも「家事手伝い」ということですまされていたからです。こういった状況が非正規シングル女性の実態を見えにくくしていました。親が高齢ともなれば、家族から介護の役割を期待されるシングル女性は、仕事に就くことも結婚することからも遠ざかります。また、親や家族との確執を抱え、時にはハラスメントを受けながらも、ほかに行き場がなく実家を離れることのできない場合もあります。

非正規職・シングル女性の困難さは、個人の問題ではなく社会全体の問題であり、誰もがその当事者になりうるということを認識してほしい。女性が多様な働き方・生き方を選択でき、結婚してもしなくても、家族と同居してもしなくても、誰もが安心して生きていけるような社会の実現には、根本的な社会制度の変革が重要ですが、旧来の価値観や社会規範を考えなおす事も必要ではないでしょうか。

参考図書（今回のテーマについてより詳しく知るためにぜひ読んでほしい本です。情報・図書コーナーに配架しています）

●ルポ　貧困女子

飯島裕子　岩波書店（2016/9）

著者は人物インタビューやルポルタージュを中心に「ビッグイシュー日本版」や「婦人公論」などで取材・執筆を行い、若者の貧困問題などに深い関わりを持っています。本書は 2012 年～2015 年までに実施された 16 歳～47 歳までの経済的に不安定なシングル女性 47 人の女性へのインタビューをもとに構成されています。女性たちの生きづらさは日本の社会構造上の問題であり、簡単に解決できるものではないと訴えながらも、私たちにできる可能な限りのことが提案されています。苦しく困難な状況に置かれている人たちの声を代弁したいという著者の思いが伝わります。

●下層化する女性たち　労働と家庭からの排除と貧困

小杉礼子・宮本みち子（編著）　勁草書房（2015/8）

本書は、第１部で女性労働が抱えてきた問題と現状を理論的に整理、第２部で女性ホームレスや貧困化する女性の実態、第３部で貧困化する女性の支援活動をしている３つの団体から見た女性の実態と支援の取り組みが紹介されています。重い内容ではありますが、執筆者はいずれも現場の第一線で活動・研究を続けているだけあって、当事者や支援者の具体的な声が多く記されていて、わかりやすい。各章にはそれぞれに政策提言が盛り込まれています。それが受け止められることを願います。

特集 女性たちの生きづらさ

シングル介護

「宝塚・シングル介護者の会」発起人
北川（きたがわ） 順子（ゆきこ） さん

働くシングル女性にとって「親の介護」も大きな悩みの一つです。ただでさえ大変な家族の「介護」、それを働きながら一人でこなさなければならないというのは、精神的にも肉体的にとてもきついことです。「宝塚・シングル介護者の会」発起人の北川順子さんにお話を伺いました。

「宝塚・シングル介護者の会」について（ホームページより）

シングル（一人）で介護をされている方で集まって、「シングル介護」ならではの悩み、ストレスを共有し、解決できる問題を一緒に考え、少しでも気持ちを楽にしましょう。

一般の家族会にもいくつか参加させて頂き、情報を頂くなど、非常に勉強になりましたし、お世話になりました。ですが、私のしんどさの背景である**「夢の実現をあきらめる」「仕事と介護の両立」「二人きりの閉塞感」**というシングル介護独特の精神的な負担はなかなか一般の家族会では共有できず、日々のストレスは解消されずに来ました。この３つのどれか一つでも抱えている人、わかって頂ける方たちと集って、愚痴でも弱音でも吐き出す場を設けたい！というのがこの会の発足主旨です。他にも同じ立場のひとがいるんだ！と知るだけでも、気持ちは楽になるはず。そして、次のステップとしては、抱えている問題、悩みを少しでも軽くできるよう、話し合い、一緒に考え、解決策を探っていきましょう。

（北川さん提供写真）

● 認知症の母との二人暮らし

要介護３の認知症の母との二人暮らしです。私はフルタイムで働いていて、母は週６日デイサービスのお世話になっています。東京で働いていたのですが、父が亡くなったのをきっかけに、宝塚に帰ってきました。当時、母は認知症ではなかったのですが、体が弱くて一人で置いておくのは心配だったのです。

● 仕事と介護の両立

東京では正社員として働いていましたが、今は非常勤の団体職員として勤務しています。こちらに帰ってきて驚いたのは、大阪では東京に比べてキャリアのある女性の就職機会が極端に少ないということでした。当時 40 代前半だったのですが、女性の求人はせいぜい 35 歳まで。なんとか正社員として就職した職場も、部署編成の変更や、大阪事務所の閉鎖などが続き、契約職員なども含め、転職を繰り返すことになりました。

今の職場は、国の機関から委託された仕事で、スタッフの大半が非常勤です。委託がなくなれば業務自体がなくなるわけですが、その可能性は少ないだろうと、万が一の場合については覚悟の上で仕事をしています。非常勤という状態がいいとは思いませんが、仕事の内容は満足していますし、残業がなく介護との両立ができることには助かっています。私は長く外資系企業に勤め、かつて仕事をしたこともある米国では個人々々が契約ベースで就労していたので、非正規雇用という考え自体がなかったように思います。日本では、正規と非正規との間に給与や立場にあまりに格差があることが問題に感じます。最近、同一労働同一賃金が議論されていますが、ずいぶん前から言われている「ワークシェアリング」は話題にならなくなってしまったのが不思議です。

● 職場で理解されにくいシングル介護者

シングル介護は一緒に担う家族がなく、身近に相談する人や助けてくれる人もいないので、働きながらすべて一人でやらなければいけないというのは大変です。

今の職場には育児休暇も介護休暇も制度としてはありますが、「介護を理由に休む」ということに対しては、少し孤立感を感じます。子どもの具合が悪くて休んだ場合、「〇〇ちゃん、大丈夫？」などと声をかけられることがあっても、「母の調子が悪くて」と休んだ場合は気を遣っているのか、そのことにふれられません。「介護」ということ自体が認知されていないのか、暗いイメージがあるのか…。たまたま職場に介護経験者がいないのが、共感してもらえない原因なのでしょうか。

● シングル介護者の会を立ち上げて

一人で介護をしていると、仕事から帰っても母親と二人きり、それも認知症のため、同じことを繰り返し言われ、すごくイライラします。それと、私にとっての一番のストレスは、将来やりたいことがあるのに母親のために足止めされているという思い、それが折に触れ母親に対する恨みになって出てしまうことでした。母を施設に預けることも一つの選択肢かと思い、いろいろ調べたり見学に行ったりしたのですが、なかなか納得いく施設は見つかりませんでした。そんな中、仕事に役立つということもあり、社会福祉士の勉強を始めました。将来私のやりたいことにもつながるかもしれない、という思いもありました。会を立ち上げたこと、社会福祉士の勉強を始めたことで、忙しくはなったのですが、「今の状態の中で、夢にむけての準備に取り組んでいる」と自分の中で、少し焦りがなくなりました。とは言いつつ、認知症の母に対してイライラがなくなったわけではありませんが、少しずつ、前に進んでいると思っています。

情報図書　図書の紹介

情報・図書コーナーでは、女性問題の解決や男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信します。図書貸出は、**【お一人３冊・２週間】**です。

「女性はこうあるべき」という旧来の結婚観や家族観が女性の生きづらさの原因である場合もあります。そんなことを考えてみるきっかけにと、今回はコミックを紹介します。軽いタッチで読みやすいけれど、内容は深く、いろいろと考えさせられます。

	●プリンセスメゾン　　池辺葵　小学館（2015/6～） 女性がひとりで家を買うことは、無謀なのか、堅実なのか…。 主人公の沼越さんは 20 代の居酒屋アルバイト。古びたアパートに住みながらもコツコツ貯金をして、いつか「自分次第で手の届く目標」であるマンションを買うために、物件巡りをしています。他にも、年代や環境の違う女性たちがそれぞれの「住まい」について考えていきます。夢物語ではなく現実には厳しい話ではあるけれど、読んだ後は心が温かく、さわやかな気分になります。
	●おひとりさま出産　　七尾ゆず　集英社（2014/10～） 年収 200 万円以下の漫画家、独身、アラフォー、一人暮らし。子どもを産んで育てるには厳しい環境の中、一人で出産に挑むという、作者の七尾ゆずさん自身の体験を描いています。漫画は面白おかしく読めてしまうのですが、現在の日本で低収入や未婚で子どもを産むことに対するさまざまな問題が浮き彫りになっています。特に日本のひとり親世帯の貧困率は OECD 諸国の中で最悪で、婚外子に対する世間の目もいまだ厳しいです。現実的には誰でもこのように子どもを産めるわけではないだろうけれど、七尾さんには頑張ってほしいとエールを送りたい！
	●逃げるは恥だが役に立つ　　海野つなみ　講談社（2013/3～） 主人公森山みくりは２５歳、大学院卒。内定ゼロで派遣社員になるも派遣切りで求職中。見かねた父親のはからいで、独身の男性会社員の家事代行として週 1 で働き始めます。仕事として順調に続いていたのですが、実家の事情から辞めることに。現状を維持したい彼らが出した結論は、就職としての結婚―契約結婚でした。コミックの軽さの中にも、結婚とは何か、家事労働の対価は、などいろいろと考えさせられます。二人のそれぞれの家族や男性が勤める会社の同僚などとの人間模様も興味深いです。

エル・シネマ　上映 ＆トーク

自転車日本縦断ロードムービー　**スタートライン**

Start Line

2016 年　日本　112 分
監督：今村　彩子

2017 年 3月4日（土）　①10:30～　②14:00～　監督トーク：13:00～

生まれつき耳の聞こえない映画監督、今村彩子さんは 2015 年夏、自身が被写体となって自転車で日本縦断の旅に出ます。荒天、失敗に次ぐ失敗、“聞こえる人”とのコミュニケーションの壁にへこみ、涙し、それでもひたすら最北端の地に向けて走り続けます。はたして彼女はどんな答えを見つけるのか？ニッポン中のためらう人に観てほしい映画です。
当日は、今村監督をお迎えしてお話をお聞きします。（手話通訳あり）

講座・イベント案内 11月～3月

講座はすべて保育付き　参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

11月10日～12月22日　木曜日　10:00～12:00　7回講座（5回目のみ12月7日　水曜日）

市民力開発講座　私たちの'エンディング'を考える

私たちが住み慣れたまち宝塚で、終末期を安心して暮らし続けるためにできることは何なのか、一緒に考えてみましょう。

①11/10　宝塚市の高齢者福祉について
②11/17　ケアマネージャーの役割について
③11/24　暮らしの中で死に逝くこと
④12/1　宝塚市内の活動事例から
⑤12/7　在宅で過ごす選択とは？
⑥12/15　私たちのエンディングをみつめて
⑦12/22　看取りの文化を考える

●対象：テーマに関心のある方　40 人

11月30日・1月30日　13:30～15:30

ほっとサロン　わたしに戻る　映画の時間

11月３０日　水曜日

「六月燈の三姉妹」　受付中

2013 年／日本／104 分

1月30日　月曜日

「タイピスト！」　1月4日（水）から受付

2014 年／フランス／111 分

●対象：子育て中の女性　各 30 人

1月13日～2月10日　金曜日　10:00～12:00　全5回　先着順　12月1日（木）から受付

サポート・グループ　人づきあいが苦手なわたし　どうつき合う？身近な人との関係

職場やご近所さん、ママ友との関係など、身近な人とのお付き合いは、距離感が難しい。私らしく生きるために、ありのままの気持ちを話せる場「サポート・グループ」で話し合ってみましょう。

●対象：テーマに関心のある女性　12 人

2月9日～2月23日　木曜日　10:00～12:00　全3回　1月4日（水）から受付 1月25日（水）17:00 締切（定員を超えた場合抽選）

こころとからだのリフレッシュセミナー　骨盤底筋ケア体操

「骨盤底筋」とは、子宮や膀胱などの内臓を下から支える筋肉のこと。解剖学や骨盤底筋の緩みの原因など基本的なことも学び、ヨガや気功の呼吸法を取り入れ、最先端のメソッド「ピフィラティス」を用いて、骨盤底筋を鍛えます。

●対象：テーマに関心のある方　20 人（全回出席できる方優先）

3月1日　水曜日　13:30～15:30　2月1日（水）から受付

ほっとサロン　わたしに戻る　読書の時間

情報・図書コーナーにある図書や雑誌を読んでリフレッシュ。『ママ』から『わたし』に戻る時間を過ごしてみませんか。新しいスタートに向けての情報収集もできます。

●対象：子育て中の女性　15 人

講座・イベント案内 11月～3月

講座はすべて保育付き　参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

女性に対する暴力をなくそう

ひとりで悩まず　まずは相談を

毎年 11 月 12 日～25 日は「女性に対する暴力をなくす運動」の期間です。

配偶者からの暴力、性犯罪、ストーカー行為、売買春、人身取引やセクシャルハラスメント等、女性に対する暴力は、女性の人権を侵害するものであり、決して許されない行為です。

パープルリボン たからづか

センターでは運動のシンボルであるパープルリボンを少しでも多くの方に知っていただき、関心を持ってもらえるように活動を続けています。今年度は 4 回のパープルリボンカフェを開催。みんなで語り合いながらリボンを作りました。

女性のための相談室　予約電話番号：0797－86－4006

電話相談	毎週　月・火・木・金曜日　10:00～12:00／13:00～16:00 直通電話：0797－86－3488
面接相談	第２・４水曜日　第１・３・５土曜日　10:00～12:50 ※要予約・相談時間は 1 人 50 分　一時保育あり
法律相談	第１土曜日（原則）　14:00～17:00　＜ 市民対象 ＞ ※要予約・相談時間は 1 人 45 分　原則１人１回限り　一時保育あり
起業相談	第１・３水曜日　10:00～12:00　＜ 市民優先 ＞ ※要予約・相談時間は 1 人 60 分　一時保育あり
キャリアアップ相談	第１～4 火・金曜日　10:00～11:50／13:00～14:50 第２金曜日は 15:00～16:50／18:00～19:50 ※要予約・相談時間は 1 人 50 分　第４火・金曜日のみ一時保育あり
チャレンジ相談	第１水曜日　11:00～13:50 ※要予約・相談時間は 1 人 50 分　一時保育あり

もっと！もっとしよう！考えよう！東日本被災地支援を

2017 ひこばえコンサート＆トーク＆チャリティバザール

2017 年 3 月 11 日（土）13:30～15:30

第１部（13:30～）：講演「正しく恐れて、正しく備えること」
室﨑　益輝さん（兵庫県立大学総合教育機構　防災教育研究センター長）
第２部（14:30～）：マンドリン演奏（恩地　早苗さん）　合唱タイム（指導：竹村　正子さん）

主催：阪神大震災を考える会　共催：宝塚市・宝塚市立男女共同参画センター

※問合せ：阪神大震災を考える会（072-755-0338）

宝塚市立男女共同参画センター

フェスティバル 2016

行こうよ！エルへ！～未来につながる宝を探そう～

12月 2日（金）3日（土）

主催：フェスティバル実行委員会／宝塚市立男女共同参画センター・エル

12月2日（金）

講習会 10:00～11:30 **ハッピーエクササイズ** ＜ｾﾝﾀｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会＞	★講演会 13:00～15:00 **DVと子どもへの影響・子どもと女性の貧困** ＜宝塚男女共同参画センター連絡協議会＞
発表会 10:30～12:00 **宝塚の昔ばなし** ＜民話の語り部　花あかり＞	発表会 14:30～16:30 **朗読“なずな”の文学を聴く** ＜朗読 なずな＞
手作りコーナー 11:00～13:00 **かわいい かんたん クリスマスグッズを作ろう** ＜ｾﾝﾀｰﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会＞	

12月3日（土）

★印は市民企画支援事業

講習会 10:00～12:00 **親子でチャレンジ！うどん打ち！** ＜宝塚発！起業Womenネットワーク‘エルジェンヌ’＞	★サイエンスカフェ 13:30～15:30 **食生活が生み出す環境問題** ＜エコプロフィット宝塚＞
朗読発表会 10:15～12:15 **ひびきあう鼓動、伝え合う喜び** ＜ななつきの朗読会＞	朗読ライヴ 14:00～15:30 **朗読 ア・ラ・カルト** ＜グループ 伽羅＞
あそびの広場 10:00～13:00 **みんなスマイル「あそびの広場」** ＜子育て支援グループ　スマイル＞	講演会 14:00～16:00 **「惣構え先駆け 有岡城と荒木村重」** ＜宝塚土曜文化サロン＞
マジック＆バルーンアート 12:00～13:00 **マジックとバルーンアートで笑顔いっぱい！** ＜宝塚マジック同友会＆バルーンアート愛好会（ふ～せんや）＞	★ワークショップ 14:00～16:00 **カラダで感じる ココロのサプリ** ＜フォーラムシアタークラブ＞
フリーマーケット 10:00～13:00 **喫茶** ＜助け合いグループ　まごの手＞ 10:00～14:30	16:00～ **男女共同参画川柳 表彰式** ＜宝塚市立男女共同参画センター＞

展　示

●パープルリボン・フレンドシップキルトの展示

パープルリボンカフェで作ったリボンの配布・フレンドシップキルトの展示

● 川柳 ＜宝塚川柳会＞

宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

ＮＰＯ法人　女性と子どものエンパワメント関西

開館時間：月曜日～土曜日（9:00～21:00）

日曜日・祝日　（9:00～17:00）

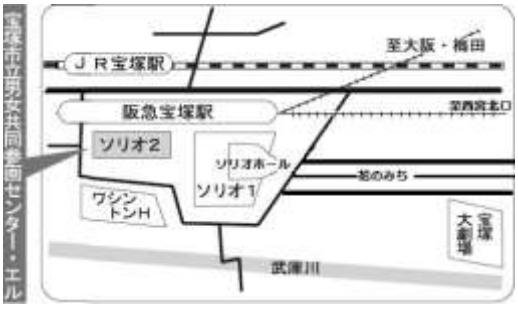
休 館 日：毎月第２日曜日・年末年始

〒665-0845　宝塚市栄町２－１－２「ソリオ２」４階

TEL：0797-86-4006　　FAX：0797-83-2424

メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp

ホームページ：http://www.takarazuka-ell.jp/



2016 年 11 月発行